

春草のような人

三江学院 季月花

先日、岡崎嘉平太さんの日中友好に尽力した生涯の業績を知った。

学生時代、嘉平太さんは県立岡山中学に入学し、ふるさとを離れて寄宿舎へ入った。そこで中国からの留学生で、書の上質な陳範九さんと出会い友達になった。陳範九さんは「克己」と力強く書いた書を彼に贈った。この言葉で、嘉平太さんはある強い精神をもらった。自分の力で欲望を抑え、彼は学業に打ち込んだ。その後、嘉平太さんは東京の旧制第一高等学校に進み中国からの留学生、龔徳柏さんと出会った。龔さんから、日本がイギリスなどの国と一緒にあって中国を困らせている話を聞いて、正義感をもった彼はとても心を痛めた。このような中国からの留学生との付き合いから、嘉平太さんは、日本と隣の国の中国は仲良くしなければいけないと考え、両国の幸せのために努力しようと心に誓った。確かに、この偉い夢を実現するために、嘉平太さんは自分の一生を捧げた。だから、真心をもって人と付き合った彼は、人々から信頼され尊敬された。私はそういう岡崎嘉平太さんを世の中の何かにとえたとすれば、間違いなく生命力の強い春草だろうと思う。

私から見れば、春草は世の中のずいぶん大したものであると思う。春草はどんなに小さくても、人の足に踏まれても、生き生きとして生きている。小さい春草は自分のすべてを春の美しさに捧げる。自然を大切にしている日本人である岡崎嘉平太さんの姿にも自然の生命力を感じる。この日中友好の使者は春草のように、一生を日中友好の促進の事業に捧げた。日中戦争の時期、両国の関係は谷底に沈んでいた。戦争のため中国と日本の国交が途絶えたとき、岡崎嘉平太さんは万難を排して、貿易を通して交流を深め、両国の国交の回復を実現に導いた。岡崎嘉平太さんのことを詳しく読んで、私は長い間思いにふけていた。肖像画で見るその心優しく気さくなおじいさんの心の中には、当時、どんな大きな困難があったのだろうか？そして、どんな大きな力で日中友好に尽くしたのだろうか？彼は春草のように、ねばり強く、困難をたくさん克服して、美しい世の中の実現に自分の力を発揮した。私にとって本当に勉強に値する人である。彼への尊敬の思いは自然にあふれられる。

「今、岡崎嘉平太さんのような人が多ければよい」と私はしきりに思う。先日から魚釣島の難しい問題で日中関係が急に厳しくなっている。両国の国民にも激しい行為をしている人がある。インターネットで、友好に反対するデモ行進の映像がいろいろと流れている。日本語を学んでいる中国人の私にとっては、とても悲しいことである。それでも、嘉平太さんのような人が多く現れると、両国がもっと理解しあって、もっと信頼しあって、こうした事件はきっとうまく解決できると思う。

大局に立って、中日両国相互の関係はどう処理したらよいのであろうか？「信はたて糸 愛はよこ糸 織り成せ人の世の美しく」という嘉平太さんの好きな言葉をよく読んではっきり分かる。この言葉は春草の精神を示しているのではないだろうか？中日の国民が広く大きな愛を抱けば、美しい世界を築くことができる。そう考えると、私は目の前がぱっと明るく開けてきた。両国の未来の空が晴れあがれることを楽しみにしている。